

引き算のまなざし 足し算のまなざし

小学校から算数を鍛えられる日本では、ほぼみんな引き算ができます。例えば、スーパーで710円の買い物をして千円札を出すと、おつりは290円。すぐ分かる。でも、外国ではそうはいかないらしい。100ドル札で71ドルの買物をする、店員さんはお客の前で厳しいお顔で足し算をはじめ。「71(セブンティワン)」とまず商品の値段を宣言してから、目の前に1ドル札を一枚ずつ積み上げ「72、73、74、75」。続いて5ドル札で「80」。最後、10ドル札で「90、アンド、100!」。そこでようやくニコッと笑顔に戻り「ヒア・ユー・アー!」。足し算でおつりが出てくるのです。

ふと思いました。これは買い物だけでなく、子ども観や成長観にも影響しているかも。引き算の得意な私たちは、子どもを見てすぐに何が欠けているか、何が足りないかと引き算してしまいがち。「だからもう少し頑張る」と子どもや自分を責めてしまうことも。そこで提案。引き算をやめてみて、いちど足し算で人や子どもを見てみませんか？

今のあなたがすばらしい！ その子の今を無条件で受け入れる。そこから一歩、また一歩と一緒にのぼっていく。今日のぼれた「一歩」を共に喜ぶ。



あかちゃんの人形のお世話をして遊んでいた男の子がなぜだか途中で投げ出してしまいました。

「あかちゃん一人でさびしいよ。遊んであげて」「もういいの…」

見ると傍らに、ちいさなシャツが落ちています。

(ははあ〜ん) 拾い上げ、袖に少しだけ右手をいれて

「〇〇くん、あかちゃんの指、見えてきたよ。お手伝いしてくれる？」

彼の目はきらり。「いいよ〜」。すっと戻ってきて、一緒に右手を通した。

つづいて、なんと左手もひとりで通してあげられました。

あとはふたたび抱っこして、あかちゃん遊び再開です。



なんで遊びが続かないのだろうと考えたときは、引き算のまなざしでした。

理想や目標から引き算で足りない部分を見つけ出し、あれこれ悩む。

でもそこで少し立ち止まり、その子の今に寄り添ってみる。受け入れてみる。

今、この子は何をしたいのだろう。何を願っているのだろう。

一緒に袖を通したときの彼の目の輝きが、その答えでした。

子どもは、(そして大人も)、足し算のまなざしで心が動き始めます。

(つくし保育園園長 つだ かずお)

<だいで教会より>11月27日(日)10:30子どもと共に収穫感謝礼拝。
秋の実り(果物、野菜)を一つずつ持ち寄って捧げ、礼拝後、一緒に分かち合います。日曜の楽しいひととき。お気軽にご参加ください。

耳鼻科、小児科受診のお願い

朝夕急に冷え込み、鼻水が絶えず息苦しそうにしている子、のどに流れ込んで、咳が出る子など、体調を崩している子がたくさん見うけられます。

重症にならないうちに、まずは耳鼻科の受診をお勧めいたします。耳鼻科の医師は子どもの場合、聴診器をあてて必要に応じて小児科の受診も伝えられています。

また、咳込みがひどく、十分に睡眠がとれていないなど、熱だけでなく咳でも子どもの体力は消耗します。園は集団の場合ですので、他の子への飛沫感染も懸念されます。発熱だけでなく、下痢や咳込みが続く場合もご自宅での療養をお願いしています。